

東カリブ諸国機構（O E C S）6 か国月間情勢報告（2023年1月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1月の東カリブ諸国機構（O E C S）6 か国（注）の内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

（注：アンティグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ（国）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネービス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

1. 概況

- （アンティグア・バーブーダ）総選挙で与党アンティグア・バーブーダ労働党が僅差で勝利。ブラウン首相、グリーン外相は留任。また、政府は英国政府から、英語圏カリブ地域の投資による市民権（C B I）プログラムを調査し、英国の国家安全保障を損なわないかどうかを判断するとの通知を受けた。
- （セントビンセント）ゴンザルベス首相がラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（C E L A C）議長に就任。7月にE U—C E L A C首脳会議を開催。
- （セントキッツ）シートン総督が1月末に退任。リバード副総督が新総督として就任する。
- （セントルシア）ピエール首相は国民向け演説の中で、増加する犯罪を排除するために国民が自らの役割を果たすよう訴えた。
- （ドミニカ）政府は選挙制度改革を巡る「不協和音」を解消したいと考えており、スケリット首相は選挙改革委員長と協議を行う。また、同首相は、21～22年にかけて政府が投資による市民権（C B I）プログラムにより4億5千万東カリブドル以上を得たと発表し、C B Iプログラムを運営している国の首相による会議を行うと述べた。
- （グレナダ）22年に、投資による市民権（C B I）プログラムを通じて1,486人がグレナダの市民となった。同プログラムを通じて政府が得た収入は1億2千万東カリブドルを超える。

2. 内政

（1）新型コロナウイルス

- （12日セントルシア報道）WHOは、コロナ感染から身を守るため、あらゆる場所でマスクの着用を続けるよう、また、混雑した部屋や換気の悪いところではマスクを着用するよう勧告している。

●（２３日セントビンセント報道）台湾は、当国の女性を対象に、コロナの影響に対応するための技術的な研修を支援する。

（２）その他内政

●（５日アンティグア報道）ブラウン首相（アンティグア・バーブーダ労働党）と同党を離党したマイケル議員の確執は、首相が同議員を名誉毀損で訴え、新たな段階へと進んだ。

●（９～１１日アンティグア報道）与野党はそれぞれ総選挙に向けて公約を発表。与党アンティグア・バーブーダ労働党のテーマは「全ての人に進歩と繁栄をもたらす次のレベル」、野党統一進歩党のテーマは「救済復興と繁栄のための７つの柱２０２３」。

●（１２日セントルシア報道）ピエール首相は国民向け演説の中で、増加する犯罪を” The Monster In The Room” と表現し、犯罪者やその違法・冷酷な行動を排除するために国民が自らの役割を果たすよう訴える一方で、「犯罪は皆の問題だ」と繰り返した。国が対処すべき重要な問題に触れた中で述べたもの。

●（１３、１４日アンティグア報道）アンティグア政府はカリブ共同体（カリコム）に総選挙の実施を監視するカリコム選挙監視団の派遣を要請。また、米州機構（ＯＡＳ）は選挙監視団を派遣した。

●（１７日ドミニカ報道）政府は選挙制度改革を巡る「不協和音」を解消したいと考えており、スケリット首相は、選挙制度改革に関する報告書と関連法案を最初に見るために、バイロン選挙改革委員長と協議を行うと述べている。

●（１７日セントビンセント報道）ゴンザルベス首相は、同国の人々がフラストレーションから殺し合いをしているという野党の主張を否定し、もし殺人が欲求不満からくるものであれば、自殺率は高いだろうと述べた。

●（１９、２０日アンティグア報道）１８日の総選挙で与党アンティグア・バーブーダ労働党（ＡＢＬＰ）が１議席差で勝利。ブラウン首相の就任式は１９日に、各閣僚の就任式は２０日にそれぞれ実施された。総選挙で落選した野党統一進歩党（ＵＰＰ）のロベル党首は党首を辞任すると表明し、プリングル副党首が新党首に就任する

●（２６日アンティグア報道）プリングル野党代表は今後５年間の同党の計画と戦略を公表し、「国民の権利のために戦い、情報を見つけ国民と共有する」、「農業、教育、スポーツ、カーニバル、芸術、金融、公共事業、インフラ、エネルギー等の分野で野党側の責任者を決めて取り組んで行く」等述べた。

●（３０日アンティグア報道）与党アンティグア・バーブーダ労働党（ＡＢＬＰ）は、今月１８日の総選挙に関し、野党統一進歩党（ＵＰＰ）のサイモン氏の指名と当選の合法性に異議を唱える請願書を高裁に提出。ＡＢＬＰは、公務だった同

氏の辞表が立候補時点で受理されていなかったため、憲法違反であると主張。

●（31日セントキッツ報道）リバード副総督が新総督に就任する。就任の式典は2月4日に開催される。

3. 経済

●（9、13日セントビンセント報道）リトル・トーキョーの再開発は、今年の第1四半期までに開始される見込みで、300万ドル以上の予算が割り当てられた。

●（11日付ドミニカ報道）チャールズ観光大臣は、アメリカン航空によるマイアミードミニカ国間の就航数が1月は週3便に減便となるが、2月4日以降は週4便になると発表した。

●（12日付セントルシア報道）世銀は、東カリブ諸国機構（OECS）の保健事業に4,000万米ドル以上を供与した。裨益対象は、ドミニカ国、グレナダ、セントルシア、セントビンセント、カリブ公衆衛生庁（CARPHA）。

●（14日付セントビンセント報道）セントビンセント SVG Air 航空は、セントビンセントとグレナダをカリアク島経由で週5便の運行を再開すると発表した。

●（17日付OECS）OECSは、フランス開発庁からの資金協力により、廃プラスチックのリサイクル事業を開始する。

●（18日付セントキッツ報道）政府は、廃プラスチックのリサイクル施設建設を台湾の支援により行う予定。

●（18日セントキッツ報道）海洋資源局は日本から寄贈された水中カメラや深海機器を受領した。

●（19日付セントビンセント報道）ゴンザルベス首相は、2022年の経済成長が5%であったと報告した。

●（22日付セントビンセント報道）セントビンセントは、ガイアナからプレハブ住宅50棟を購入するために、ガイアナのデメララ銀行と600万東カリブドル（約222万米ドル）の融資契約を交わした。

●（23日付セントビンセント報道）国連食糧農業機関（FAO）は、物価高により健康的食事が摂れないことで、セントビンセント国民の約7%、7.7万人が栄養不良状態にあると報告した。

●（23日セントキッツ報道）ウィルキン司法長官兼法相は、不動産開発業者によって悪用される抜け穴を取り除くため、投資による市民権（CBI）プログラムに効果的な変更を行ったと発表。

●（24日付アンティグア報道）2022年の消費者物価は9.2%増、食料物価は12.1%増となった。

●（25日付セントルシア報道）セントルシアとカタールは、航空協定に署名し

た。

- （25日付グレナダ報道）2022年は、1,486名が投資による市民権プログラムで市民権を獲得、1.2億東カリブドル（約4,440万米ドル）の収入をもたらした。
- （26日付グレナダ報道）政府は、2023年、91日間の短期国債を4回、365日間の短期国債を3回、総額1.05億東カリブドル（約3,885万米ドル）を発行する予定である。
- （27日アンティグア報道）政府は英国政府から、英語圏カリブ地域の投資による市民権（CBI）プログラムを調査し、英国の国家安全保障を損なわないかどうかを判断するとの通知を受けた。アンティグア政府は、地域のプログラムの評価が好ましい結果をもたらすと確信している。
- （28日付セントビンセント報道）政府は、低燃費車の輸入を促進するために、ハイブリッド、電気自動車の輸入税及び物品税を引き下げた税改正を2023年4月1日から施行する。
- （30日付セントビンセント報道）ゴンザルベス首相は、IDBに加盟する負担金が高額であることから加盟しないと、カリブ開発銀行から必要な資金を調達出来ていると述べた。
- （31日付ドミニカ報道）スケリット首相は、2022年度の投資による市民権プログラムの収入が4.6億東カリブドル（約1.7億米ドル）となったと報告した。
- （31日付ドミニカ報道）政府は、2030年までに農産物を7億東カリブドル（約2.6億米ドル）まで成長させる目標を掲げる。
- （31日付セントルシア報道）台湾は、経済的に恵まれない家庭向けに総額1億米ドルに上る家庭用品の寄付を公平・社会主義・能力開発省経由で実施した。

4. 外交

- （16日グレナダ報道）ミッチェル首相は、グレナダが銃と弾薬の不法輸入の脅威に晒されていると述べた。同首相は、地域社会における銃器に対して容赦ない対応（ゼロ・トレランス・アプローチ）を行う予定である。
- （23日セントビンセント報道）セントビンセントはラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）の議長国を目指す。ゴンザルベス首相はピータース外相等を率いて第7回CELAC会議が開催されるブエノスアイレスを訪問する。
- （24、25日セントビンセント報道）セントビンセントがCELACの議長国に選出された。ゴンザルベス首相（CELAC議長）とミシェル欧州理事会議長は、7月17～18日にブリュッセルで次回EU・CELAC首脳会議を開催すると発表。

●（30日セントビンセント報道）セントビンセントは、今年7月にブリュッセルで開催されるEU・CELAC首脳会議において議論を主導する。同首脳会議は、気候変動、健康、食糧安全保障、移民、安全保障、国際犯罪といった共通の優先課題について、両地域間の連携をさらに強化するものとなる。